

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:3

最北の大学病院における専門看護師の活動報告

酒井周平, 尾崎靖子, 大居朋世, 國本紅美子

## 最北の大学病院における専門看護師の活動報告

○酒井周平<sup>1)</sup> 尾崎靖子<sup>2)</sup> 大居朋世<sup>2)</sup> 國本紅美子<sup>3)</sup>

旭川医科大学病院 1) ICUナースステーション

2) 腫瘍センター・外来化学療法センター・緩和ケア診療部ナースステーション

3) 6階東ナースステーション

### 【実践の背景・目的】

北海道の道北地域に位置するA大学病院には、専門看護師(以下、CNS) 4名(がん看護3名、急性・重症患者看護1名)が所属している。これまで私たちは、組織や地域の現状やニーズに合わせてながら、院内外において様々な活動をしてきた。CNS委員会の設置から2年が経過し、今後は規模が拡大していく見込みである。そこで、これまでのCNSの実績をまとめ、今後の方向性への示唆を得ることを目的とした。

### 【実践内容】

2017年度よりCNS委員会の設置を検討し、2018年度より正式に運用を開始した。看護部の倫理担当部長と協働した倫理研修やセミナー開催、CNS介入事例を共有して役割理解の促進、CNSラダーを用いたスペシャリスト評価の検討をしている。

がん看護CNSは、院内のがん看護に関する研修やELNEC-Jの講師・ファシリテーター、がん診療拠点病院の研修会講師、看護学校や大学の講師を担っている。急性・重症患者看護CNSは、近隣の総合病院ICUにおける倫理活動の取り組みへの支援やフィジカルアセスメントセミナーの講師、地域の看護師を対象にしたクリティカルケアセミナーの開催、大学院の講師などを担っている。

### 【倫理的配慮】

A大学倫理委員会の承認を得た。開示すべき利益相反はない。

### 【実践結果】

CNS委員会の目標である「CNS役割を周知し、院内・院外における活動の場を拡大する」は、それぞれがコンサルテーションや講師を務め、活躍の幅を広げることができている。また、「具体的な役割活動の言語化や文献検討などを通して、各々の役割能力を洗練させる」については、まだ十分な時間をかけて深めることができていない。

### 【考察】

これまでの活動を振り返ると、組織や地域におけるCNSの認知度が向上しつつあることで役割活動の場が広がっていることがわかる。しかし、活動の共有や役割理解の促進には至っておらず、言語化した介入事例の共有やラダーによる課題の明確化が必要である。